

平成27年度 香川大学入学式 学長告辞

香川大学に入学された皆さん、おめでとうございます。香川大学の教職員を代表してお祝いを申し上げます。

長い受験生活を終えて、これからの新たな大学生活に思いを馳せ、目を輝かせている皆さんを見ると、私たちも心が躍り、改めて新鮮な気持ちになります。また、この日を待ち望んでおられたご家族並びに関係の皆様方にも、心よりお祝いを申し上げます。

今年の学部入学者は1,323名で、そのうち留学生は8名です。

さて、皆さんは、昨年ノーベル平和賞を17歳で受賞されたパキスタンのマララさんの、受賞時や国連での演説を聞いたことがあると思います。彼女は“教育は人生の恵みの一つであり、人生に欠かせないものの一つでもあります。…私はいつも学校を愛し、新しいことを学ぶことを愛しています。…一人の子供、一人の教師、一本のペン、そして一冊の本が世界を変えられるのです。”と言っています。世界には貧困、宗教、紛争などで教育を受けられない子供たちがいまだに多くいます。

一方で皆さんは、今日までご家族や学校、地域の方々の惜しみない支援を受け学業にいそしみ、本日香川大学に入学されました。教育を受けたくても受けられない人々に比べ、何と幸福で恵まれた環境でしょう。

ここまで育て上げてくださったすべての方々に感謝し、ここ香川大学で額に汗し、若いエネルギーをぶつけて修養に励んでください。皆さんが過ごす4年ないし6年は、瞬く間に過ぎ去ります。漫然と毎日を送るのではなくて、学修・サークル活動・フィールドワーク・社会活動・研究などをおして、一日を終えた時にああ今日は何かをやり遂げた、何か新しい知識を得た、何か新たな体験をしたと、振り返ることのできるような、感動のある学生生活を過ごすことを、切に望みます。

また、総合研究大学院大学の長谷川真理子氏は、ヒトの人生を7つの段階に分け、思春期とは、成長期のスパートであり脳の働きの大きな転換期でもある。世話される側から世話する側への転換期でもある。さらに“今ここ”を超えて、将来を創造し、そのために様々な目の前の要求の間に優先順位をつけられるようになる時期、自分というものを客観的に見て様々な社会を多次元で見て、自分の位置を捉え、将来なりたい自分に向けて努力できるようになる時期だとも言っています。

正に皆さんは、その思春期の真っ只中です。大学に入学したことがゴールではありません。自分を高次元的に見て自らの将来の姿を見つける場であり、時間でもあります。

さて、皆さんは大学に入ったらあれをしようこれをしよう心の中に温めていたことがたくさんあるはずです。その皆さんの期待に応えるべく、香川大学は多

くの可能性を秘めた意欲ある皆さんのために、平成25年度から新しい学修制度を取り入れています。それは、「香川大学ネクストプログラム」や「アドバンスト・セミナー」です。これらは全学部に開放されており、やる気と熱意を持った「もう一步先」に進みたい学生の背中を後押しするものです。

その他、香川県や瀬戸内海をフィールドに、積極的に大学を出て地域活性化や地域貢献に取り組み、地域理解を深めるアクティブラーニングにも、多くの学部が取り組んでいます。

幸町キャンパスの図書館、大学会館もリニューアルされ、特に、新設されたオリーブスクエアには、英会話を楽しむイングリッシュカフェや学習ラウンジも整備され、学生・教職員の自由な交流の場として活用されています。

香川大学は、現在ある皆さんを、在学期間中に多くの高い付加価値を身につけた魅力ある人材として鍛え上げます。皆さんがどのように変貌し、卒にとられない規格外の逸材となって卒業するかが本学の大学力と考えています。

皆さんは、本日この瞬間から香川大学のゼッケンを胸につけたランナーです。社会ルールを遵守し、地域の方々から認められるヒトとなるように心がけて下さい。

最後に、私の愛読書のひとつであります司馬遼太郎の「竜馬がゆく」から、心に残った言葉をいくつかご紹介したいと思います。

「人として生まれたからには、太平洋のようにでっかい夢を持つべきだ。」

「いったん志を抱けば、この志にむかって事が進捗するような手段のみをとり、
いやしくも弱気を発してはいけない。」

そして、「おのおの、その志のままに生きよ。」

皆さんが今、心に抱いている大きな夢や希望、そして高い志を忘れず、これ
からの学生生活が未来への開花につながる有意義なものとなることを期待し、
告辞といたします。

平成27年4月4日

香川大学長 長尾 省吾